

2018年度第4回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ アスター賞

アスター (Aster) は、中国原産のキク科の一年草。名は、星を意味する古代ギリシャ語に由来する。別名エゾギクとも呼ばれ、赤・桃・紫・青・白など多彩な花を咲かせる。花言葉は「信ずる恋」「多様性」。

○ 鋸山特別

鋸山 (のこぎりやま) は、千葉県の房総半島南部に位置する標高 329m の山。その名のごとく鋸の歯のような形状を呈している。また、東京湾、三浦半島、富士山を展望でき、国土交通省選定の「関東の富士見 100 景」にも指定されている。

○ 中山競馬場開設 90 周年記念紫苑ステークス (GⅢ) (秋華賞トライアル)

本競走は、中山競馬場開設 90 周年を記念して実施される。

また、秋華賞のトライアルレースとして平成 12 年に創設された牝馬限定競走。28 年より GⅢ に格上げされた。なお、第 3 着までの馬には秋華賞への優先出走権が与えられる。

紫苑 (しおん) は、キク科の多年草。秋には、茎頂に青紫色の頭花を多数つける。花言葉は「思い出」「追憶」。

<第2日>

○ 木更津特別

木更津 (きさらづ) は、千葉県中西部、東京湾東岸にある市。東京湾アクアラインや館山自動車道などが通っており、市内には童謡『証城寺の狸ばやし』で有名な證誠寺や、「切られ与三郎」の墓がある光明寺など見どころも多い。

○ ながつきステークス

ながつき (長月) は、陰暦 9 月の異称。語源は、夜が長くなる月の意の「夜長月」という言葉を略したものと言われている。

○ サマーマイルシリーズ京成杯オータムハンデキャップ（GⅢ）

サマーマイルシリーズの最終戦。

本競走は、昭和 31 年に創設された『オータムハンデキャップ』を前身とする重賞競走。34 年に『京王杯オータムハンデキャップ』となり、平成 10 年に現在の競走名に改称された。創設時は現在と同じ 1600m で実施されていたが、一時 1800m に延伸され、昭和 59 年に再び 1600m に短縮された。

京成電鉄株式会社は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 3 日>

○ 古作特別

古作（こさく）は、千葉県船橋市西部の地名。同地に中山競馬場が開設されたのは昭和 3 年。建設工事の際には、後に「古作貝塚」と名付けられる縄文時代の遺跡が発見されている。

○ 松戸特別

松戸（まつど）は、千葉県北西部の下総台地と江戸川の沖積平野にまたがる市。江戸幕府直轄の放牧地であった小金牧で知られているように、古くから馬と縁の深い土地柄である。明治から大正時代にかけては、現在の中山競馬場の前身である松戸競馬場があった。

○ レインボーステークス

レインボー（Rainbow）は、虹を意味する英語。空気中の水滴によって太陽光が分散されて生じる複色色の光の帯のことで、雨上がりに弧を描いて現れることが多い。

<第 4 日>

○ 汐留特別

汐留（しおどめ）は、東京都港区にある地域。かつて旧国鉄の貨物ターミナルがあった。現在はその跡地を利用した再開発が行われ、多くの商業施設やホテルなどが建設されている。

なお、同地には J R A の場外勝馬投票券発売所であるウインズ汐留がある。

○ 初風特別

初風（はつかぜ）は、季節の初めに吹く風。特に初秋の風のことを言う。

○ ラジオ日本賞

ラジオ日本は、横浜市に本社を置くアール・エフ・ラジオ日本の通称。昭和 33 年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 5 日>

○ 白井特別

白井（しろい）は、千葉県北西部、下総台地に位置する市。北総鉄道が通じ、住宅地として発展している。梨や自然薯の生産が盛ん。

なお、同市は JRA 競馬学校の所在地でもある。同校は昭和 57 年開校で、騎手課程と厩務員課程の 2 コースがある。また、施設内には国際厩舎があり、国際交流競走のための検疫業務を行うことができる。

○ 浦安特別

浦安（うらやす）は、千葉県北西部、江戸川河口の三角州にある市。東京湾に面し、かつては海苔や貝類の養殖が盛んであった。現在は、埋め立てによって総面積がそれまでの約 4 倍になるとともに臨海工業地化が進み、地下鉄東西線や JR 京葉線が通じて人口も急増した。また、市内に東京ディズニーリゾートがあることでも有名。

○ 朝日杯セントライト記念（GⅡ）（菊花賞トライアル）

本競走は、日本初の三冠馬で、顕彰馬でもあるセントライト号の功績を称え、昭和 22 年に創設された 3 歳馬限定の重賞競走。当初は 2400m で行われていたが、55 年以降は 2200 m で実施されている。また、負担重量は別定、定量を経て、平成 15 年からは馬齢重量となった。なお、第 3 着までの馬には菊花賞への優先出走権が与えられる。

朝日新聞社は、東京など全国 4 ヶ所に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 清秋ジャンプステークス

清秋（せいしゅう）は、空が澄み、空気の清らかな秋のこと。時候の挨拶などに用いられる。

○ 九十九里特別

九十九里（くじゅうくり）は、千葉県山武郡の町。九十九里浜は、千葉県北東部の太平洋岸の、北は刑部岬から南は太東崎までの約 66 kmにおよぶ砂浜。九十九里浜で獲れるハマグリが有名で、海岸沿いには焼きハマグリが味わえる飲食店が並ぶ。

○ 茨城新聞杯

茨城新聞社は、茨城県水戸市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ セプテンバーステークス

セプテンバー（September）は、9月を意味する英語。ラテン語で「7番目の」を意味する「Septem」に由来する。古代ローマ暦では、3月が年始とされていたことから、3月から数えて7番目の月にあたる9月を指す。

<第7日>

○ 芙蓉ステークス

芙蓉（ふよう）は、アオイ科の落葉低木。暖地に自生するほか、観賞用に栽植される。花は一日花で、花色が変化する品種もある。花言葉は「繊細美」「富貴」。

○ 外房特別

外房（そとぼう）は、千葉県南東部の太平洋に面する海岸。安房の国の外側という意味。冬も温暖で草花の栽培が盛んである。

○ 産経賞オールカマー（GⅡ）

本競走は、昭和30年に創設された重賞競走。当初は3歳以上のハンデ戦として2000mで実施されていたが、距離は59年に2200mに延伸され、負担重量は数度の変更を経て平成7年から別定となり、現在に至る。平成7年に国際競走となり、GⅢからGⅡへと格上げされた。なお、第1着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。

産業経済新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ カンナステークス

カンナ (Canna) は、カンナ科の多年草。茎は肥厚した根茎から出て、大きな楕円形の葉を数個つける。夏から秋にかけ花茎を出し、大きな花を次々と咲かせる。花言葉は「永続」「堅実な未来」。

○ 習志野特別

習志野 (ならしの) は、千葉県北西部、東京湾に面する市。市域は下総台地と東京湾の埋立地で構成され、東京のベッドタウンとして発展している。また、市の西部には、ラムサール条約登録地である谷津干潟があり、多くの渡り鳥が飛来する。

○ 顕彰馬選定記念ロードカナロアメモリアル

本競走は、中央競馬の発展に多大な貢献があったとして、ロードカナロア号が本年顕彰馬に選定されたことを記念して実施される。

ロードカナロア号は国内ではスプリンターズステークスを連覇、また高松宮記念、安田記念も制覇し、海外では日本馬初となる香港スプリント連覇を達成するなど、G I 競走 6 勝の輝かしい実績を残した。

<第9日>

○ サフラン賞

サフラン (Saffron) は、アヤメ科の多年草。南ヨーロッパから小アジアが原産で、10～11 月頃に球茎から芽を出し、紫色の花をつける。赤く長い 3 本の雌しべは、薬用や染料として使用されるほか、香辛料として料理にも使われている。花言葉は「歓喜」「陽気」。

○ 勝浦特別

勝浦 (かつうら) は、千葉県南東部、太平洋に面する市。中心の勝浦地区は漁師町、市場町として発達し、朝市は近世以来の伝統をもつ。勝浦港は県内有数の水揚げ量を誇り、特にカツオの水揚げ量が多い。

○ スプリンターズステークス (G I)

本競走は、昭和 42 年に創設された重賞競走。当時、3 歳以上の馬が出走できる唯一の 1200 m の重賞競走であった。59 年のグレード制導入当初は G III だったが、62 年に G II へ、平成 2 年には G I へと格上げされた。12 年より実施を従来の 12 月から 10 月上旬とし、秋競馬最初の G I 競走として定着している。文字通りスプリンターのチャンピオンを決める一戦として、『高松宮記念』と並び大きな目標となっている。

○ 内房ステークス

内房（うちぼう）は、千葉県南西部の東京湾浦賀水道に面する海岸。外房に対し、房総半島南端の洲崎から北の富津岬までを言う。海岸線のほぼ全域が南房総国立公園に属し、夏は海水浴場として賑わう。